

# 広報紙におけるやさしい日本語 — 受け手にとってのやさしさの要素検討 —

信岡 ありさ<sup>†</sup>

How should 'Basic Japanese' be written in newsletters of local governments?  
A survey study of factors contributing to being 'plain' to non-native readers.

Arisa Nobuoka

## 1. はじめに

日本に在住、就労する外国人は増加の一途をたどっており、2019年4月には「出入国管理法」が改正され、今後さらに在日外国人の増加が見込まれる。日本での生活、特に地域での生活に必要な情報を行政が提供する広報紙は、昨今紙面だけでなく機械翻訳が可能なインターネットでも提供されるようになってきた。行政からの情報は平等に授受・共有されるべきであるが、外国人は日本語が理解できないことで不利益を被る可能性が高い。また日本人、外国人住民双方が安全安心に暮らすためにはコミュニケーションツールとしての共通言語が必要であり、昨今注目されているのが「やさしい日本語」である。

「やさしい日本語」についてはすでに作成要領が複数提示されているものの、それに準拠していない「やさしい日本語」が散見される。その理由は情報の送り手である作成者の「やさしい日本語」についての認識不足、あるいは認識していても作成要領で示された項目全てを完備した文作成に労力を費やせない現状があるためと考える。また生活していく上で「N4レベル」の日本語能力が必要とされているが、それがどの程度のものであるか関係者以外、説明は容易ではない。この現状を緩和するためには、作成要領に複数存在するやさしさの要素のいずれが優先されるべきかを明確化する必要があると考えた。

よって本研究では、情報の収集分析による「やさしい日本語」の構成要素限定と、多変量解析による要素の影響度の数値化を目的とした。研究課題は①広報紙の現状や先行研究、ヒアリング等を踏まえやさしい日本語の要素を抽出・限定すること、②アンケート調査の結果を分析し、各要素のやさしさへの影響を数値化すること、③属性により要素の影響度に差異があるかを解明することの3点である。

やさしい日本語は高齢者・子ども・障害者にも有効であ

るとの立場もあるが、例えば高齢者は外来語や短縮語、造語を難しいと感じるものの、複雑な構文や語彙の理解度についてはほぼ問題なく、高齢者・子ども・障害者いずれもレベル差はあるが日本語母語話者である。非母語話者にとってのやさしい日本語の要素を特定しやすくするため、調査対象は外国人のみとした。対象媒体は広報紙、そして文字サイズ・色・配置といった視覚条件に起因する文字の判別しやすさlegibilityではなく、表現を中心とした語学的条件による文章自体の読みやすさreadabilityに特化することとした。

## 2. 広報紙について

行政機関の情報発信手段のひとつとして「広報紙」がある。行政機関の約7割が月1回発行（日本広報協会）、自治会経由で各世帯へ配布したり公共施設や駅等で配架したりしており、市政方針、施策、行事、防災、衛生、税金、保険、年金、介護、子育て、イベント案内等、地域住民として生活していくうえで必要な記事が掲載されている。最近では広報紙を行政機関のWEBサイトで見ると、自動翻訳機能を利用して母語で読むことも可能である。

行政からの情報の発信状況を把握するために、東京都の外国人比率上位5区（新宿区、豊島区、港区、台東区、荒川区）及び高齢者比率の高い4区（北区、足立区、葛飾区、大田区）のホームページを確認したところ、各区役所の自動翻訳機能の選択方法や対象言語に差異があることがわかった。そこでさらに上記9区に電子メールにて「文作成・語彙選択等のルール」や「外国人に対して配慮していること」等について情報収集を行ったところ、5区（足立区・葛飾区・台東区・大田区・新宿区）から回答が得られた。それぞれ地域での生活に必要な情報をいかにわかりやすく住民へ伝えるか検討・工夫を重ねていることが把握で

<sup>†</sup>2021年修了（人文学プログラム）、現所属：横浜市会計年度任用職員

広報紙におけるやさしい日本語  
— 受け手にとってのやさしさの要素検討 —

きたが「やさしい日本語」に言及した回答文はなかった。

日本は単一民族国家意識の強い島国であることから、直接の関係者以外多文化多言語に関する認識はまだまだ低く、外国人への情報提供方法は確立していない。その情報提供方法の一つである「やさしい日本語」については次節で述べることとする。

### 3. やさしい日本語について

#### 3.1 やさしい日本語とは

筆者はこれまで病院、会社、日本語学校、役所で勤務し、それぞれの職場で用いられる特徴的な言語を経験してきた。実際外国人や高齢者に対して、尊敬語、謙譲語のみならず丁寧語さえ使用せず、子どもに話すような発言をもって「やさしい日本語」での説明としているケースもみられる。また、役所での配布物は表現等改善されつつあるが、情報過多なものが多々あり、また難解な行政用語はいまだに使用されている。「やさしい日本語」とは何か、その構成要素を抽出するためにまず先行研究を確認した。

#### 3.2 先行研究

義永(2015)は、やさしい日本語は「災害場面を想定したもの」と「地域型教育のモデルとなることを想定したもの」とに大きく2分され、両者には相違点があるものの「いずれも日本語に堪能でない外国人を対象に、日本人が有する情報(災害時の情報、行政の情報など)を不特定多数の外国人にわかりやすく伝える、という共通の目的をもっている」と述べている。

1995年の阪神・淡路大震災をきっかけとして注目されたやさしい日本語は弘前大学社会言語学研究室佐藤和之元教授を中心に多数の研究成果が報告されたが、震災から25年となる2020年1月17日をもってホームページが閉鎖された。このグループは当初災害時のやさしい日本語を対象としていたが、後に生活情報伝達時の語彙・規則も提示、さらに日本語の難易度を自動推定できる「やんしす」(Yasasii Nihongo System)を構築し公開した。一橋大学庵功雄教授は、科研費補助金のプロジェクト(2010年～)において、日本語教育文法の観点から教えやすく学びやすい「やさしい日本語」を検討し、「初級日本語教育の公的保証の対象として」「地域社会の共通言語として」「地域型初級として」3つの側面を示した。また岩田一成教授(聖心女子大学)は、「やさしい日本語」特に公的文書について研究報告があり、問題点・改善点を明確に指摘しており、横浜市、町田市、名古屋市等で「やさしい日本語」の共同研究や職員向けの研修も実施している。2020年2月より法務省出入国在留管理庁と文化庁が庵教授、岩田教授らを構成員として有識者会議を開催し、同年8月「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」が作成公開された。このグループは「やさしにチェッカー文章診断」「公文書作成支援システム」等を構築・公開もしている。

NHKは2012年4月より「NEWS WEB EASY」では外国人や小中学生を対象に「わかりやすい日本語」でニュースを伝えている。作成基準は弘前大学の書き換え基準を参考にしているが、WEBの利点を生かしてふりがなの有無や画面上での辞書説明表示、固有名詞の色分けがなされている。外国人、子ども、知的障害者にも有効との調査結果が報告されている。その他複数の大学や研究機関でも「やさしい日本語」について調査・研究が続けられている。

### 4. 調査準備

#### 4.1 やさしい日本語の要素抽出

##### 4.1.1 情報比較

要素抽出の準備として①実際の「やさしい日本語」版広報紙比較、②各研究者や機関が提唱するやさしい日本語作成方法比較、③難易度自動判定システム比較、④協力機関担当者へのヒアリングの4点を実施した。

①広報紙比較はインターネット上で入手したやさしい日本語広報紙の中から神戸市中央区と東京都大田区発行の2紙で、2018年1年分の中から熱中症に関する記事及びイベント案内(花火大会)に関する記事を比較した。合わせて横浜市の通常家庭に配布されている広報紙とWEBサイトのみで公開されているやさしい日本語版の比較、NHKのWEBサイトにおけるやさしい日本語版と通常版の比較も行った。

②については各機関が提示しているやさしい日本語作成方法をまず統語的要素・表記的要素・語彙的要素・その他に分類した。比較は、弘前大学、一橋大学・聖心女子大学他の「やさしい日本語」科研、NHK、国立国語研究所、行政機関(東京都、島根県、大阪府、愛知県、埼玉県、静岡県、横浜市、豊橋市)の各資料によるもので、統語的要素15項目、表記的要素8項目、語彙的要素17項目、その他8項目合計48項目を得た。

これらを分類すると以下の通りとなる。

##### (1) 共通項目

- ・一文を短くする
- ・二重否定の表現を避ける
- ・文末表現を統一する
- ・すべての漢字にふりがなをふる
- ・難易度の高い語彙は使用しない(旧日本語能力試験3.4級、N4以下)
- ・カタカナ、外来語はできる限り使用しない
- ・曖昧、抽象的な表現は避ける

##### (2) 対立項目

- ・ローマ字は使わない／ローマ字をそえる(対象による)
- ・重要な語彙・日常生活で使う語彙はそのまま使用／簡単な語彙を使用・言い換えを行う

##### (3) 固有項目

- ・命令形は避ける、肯定形の文にする

- ・動詞はひらがなを使う／全文をひらがなで記載する（対象による）
- ・口語文で書く
- ・方言を使用しない

これらの項目をふまえて記事全文のやさしい日本語文を作成、もしくは日本語版をやさしい日本語へ翻訳することは業務の負荷が多量にて不可能である。このような事情を解消するために横浜市ではやさしい日本語書き換え支援システムを導入しており、他の機関でもやさしい日本語自動判定システムを構築しており、すでに公開・利用されている。③として一般に公開されている3つ（弘前大学、一橋大学他、早稲田大学）の書き換え・判定システムの比較を行った。さらに資料からの情報収集に加え現状をより詳しく把握するために④神奈川県や横浜市の各機関、日本語学校、日本在住の外国人にヒアリングを行った。

#### 4.1.2 要素選定

上記で得た情報及び筆者の経験から、初級者にとって難易度に影響することが明白な次の5項目について、「やさしい日本語」の大前提として本研究での要素検討からははずすこととした。

- ①一文を短くする
- ②全ての漢字にひらがなでふりがなをふる
- ③擬音語・擬態語を使用しない
- ④尊敬語・謙譲語を使用しない
- ⑤日本語能力試験N4レベル相当の文（文法・語彙）を基本とする。

擬音語・擬態語は、筆者が日本語学校で実際に試験を行ったところ正答率が非常に低く、音を聞けば当然想像がつくはずと認識している日本人の常識との齟齬が確認されたことから加えた。

この大前提のもとで、先行研究及び前述の情報収集内容を踏まえ、要素を3分類7項目にしばった。

- 分類1統語的要素：「主語」「文末表現の制限」2項目  
 分類2表記の要素：「わかちがき」「ローマ字表記」  
 「(和語・漢語の)カタカナ表記」3項目  
 分類3語彙的要素：「外来語」「語彙説明」の2項目  
 仮説と選定理由は以下の通りである。

##### ①主語の有無：「あり」がやさしい

主語なし文は日本語初級者にとっては誰の行為か理解しにくいと考えられる。依頼や義務の動詞との相関が高い。しかし、ヒアリングでアジア圏の外国人は、欧米人に比べて主語が明示されていなくても推察する能力が高いと思われるという意見が聞かれたことから、国籍、母語によって影響度は異なる可能性がある。

##### ②文末表現の制限：「あり」がやさしい

例えば納税の記事においては「払ってください」「払わなければいけません」さらに「払う必要があります」「払いましょう」といった表現が考えられるが、通常の広報紙では「市民税の納期は3月31日までです」という表現が使

われることが多く、それは納税が「義務」であることを読者が認識しているという前提に基づくものである。広報紙の同一文を読んでも解釈が異なることによる齟齬が生じる危険性を避けるために、文末表現の制限は重要であると考えられる。ここでいう制限とは、初級レベルの以下6種類のみを使うという設定である。

「みんなの日本語」4課「します/しました」（報告）、6課「ましょう」（勧誘・指導）、14課「てください」（依頼）、15課「てもいいです」（選択可能）、17課「なければなりません」（義務）、18課「ことができます」（可能）の6種類で、広報紙の通知（イベント、年金、税金等）を伝達できると

##### ③わかちがきの有無：「あり」がやさしい

漢字、ひらがな、カタカナ、ローマ字が混在し、さらに初級者にとっては難しい助詞の理解が不十分な場合、わかちがきすることで文（語彙）を把握しやすいのではないかと推察する。学校で用いるテキストでは、日本語学習教材「みんなの日本語初級」（スリーエーネットワーク）ではわかちがきが見られるが、「できる日本語」（アルク）、「げんき」（The Japan Times）ではわかちがきされていない。「やさしい日本語」で書かれた広報紙はそのほとんどでわかちがきがみられるが、行政のWEBサイトではみられないものがある。英語等では語彙間にスペースが入り、中国語やタイ語等では一文内にスペースがないことから、学習歴に加え母語の影響もあるのではないかと推察する。

##### ④ローマ字表記の有無：「なし」がやさしい

地名や固有名詞などの表示で見られるローマ字であるが、イベント等デザインや強調の目的で用いられる。また初級日本語学習者に発音を教える場合にローマ字表記をすることがあるが、訓令式・ヘボン式・日本式で表記方法が異なる。筆者はその表記につられて日本人が曖昧にしている発音の違いを外国人学生から指摘された経験があり、一方アルファベットを知らず、ひらがな、カタカナ、漢字に加えてローマ字を学習する負担を訴えた学生もいた。また2001年の文化庁の調査でひらがなが読める84.3%、カタカナが読める75.2%に対してローマ字が読めるのは51.5%である。ローマ字表記の影響度については評価がわかれると考えた。

##### ⑤和語・漢語のカタカナ表記の有無：「なし」がやさしい

外来語のカタカナ表記だけでなく、ローマ字使用理由と同様に例えばごみをゴミ、横浜をヨコハマ等強調やデザイン等の目的で和語・漢語をカタカナで表記することがある。広報紙で「イヌ・ネコの殺処分をなくそう」という記事があり、初級者はひらがなで「いぬ」、中級者及び漢字圏出身者は「犬」と表記されていれば理解できるものの、「イヌ」との表記は混乱を招くという意見がヒアリングで得られた。ここでは本来カタカナで表記しない和語・漢語のカタカナ表記という区分として調査する。

##### ⑥外来語の有無：「なし」がやさしい

日本人にも難解な外来語が多数存在し言い換えが推奨さ



広報紙におけるやさしい日本語  
— 受け手にとってのやさしさの要素検討 —

れる一方、「ケアマネ（－ジャー）」「Jアラート」、最近では「クラスター」「ステイホーム」等メディア等を通じてそのまま浸透させようという風潮もある。しかし日本ではすでに浸透している外来語でも例えば、「サポートが受けられます」との記事を読んだ中国人は金銭の支援が得られると認識することがあり、どうして「バイルス」が「ウイルス」、「バクシン」が「ワクチン」なのかと疑問をもつ欧米人の声も聞かれた。一方身近な生活に関わる「コンビニ」「スーパー」は原語との違いがあってもすぐ理解できるようになることから、外来語の有無も要素として取り上げ分析する。漢語も外来語であるが既に日本語化している語彙は外来語としないこととする。

#### ⑦語彙説明：「あり」がやさしい

「難しい言葉も説明が書いてあればわかる」「ふりがながあれば調べられる」という意見も聞かれ、例えば「消防車」は「火をけす車」とすると理解度があがるとのことである。日本語作成方法でもいくつかの機関では重要な語彙はそのまま使用し説明をつけることを推奨していることから、語彙説明があればやさしく感じるとの仮説をたてた。

以上3分類7項目を要素とし、各要素の「やさしさ」への影響を調査することとした。

## 4.2 アンケート調査設計

### 4.2.1 回答者属性、広報紙・情報収集についての質問項目

回答者の属性に関する質問として、性別、年代、職業に加え国籍、在日年数、日本語学習歴、情報検索手段さらに広報紙の利用度、広報紙レベルの読解力の9項目を設定した。

### 4.2.2 評価文作成方法

抽出した要素7項目のやさしさへの影響度を調べるために、まず実際の広報紙を参考に疑似広報文候補を検討し、その中から2文を選択した。Aはイベント、Bは環境保護の記事を参考としている。BはAと文字数は大差ないが、複文として難易度に差異をつけた。

- ・疑似広報文A「8月1日の町おこしフェスでキレイなHANABIを見ませんか。」(24文字)
- ・疑似広報文B「不用品をリサイクルしてゴミをZEROにする必要があります。」(25文字)

次に評価文を作成する。今回検討する要素7項目について「あり」「なし」(2水準)を組み合わせると、2の7乗、128パターン存在する。その全てのパターンについてやさしさを評価することは回答者の負担が多く正確な結果が得られないため、実験計画法のL8(27)直交表を用いることで8パターンについての評価で分析を行うこととした。

7要素と2水準(あり、なし)を割り付けた結果は表1の通りである。

縦軸の1から8は評価文のパターン(以下P)である。

評価文の作成方法を具体的に説明する。疑似広報文A「8月1日の町おこしフェスでキレイなHANABIを見ません

表1 要素割り付け

| P | 統語的要素 |      | 表記的要素 |        |        | 語彙的要素 |      |
|---|-------|------|-------|--------|--------|-------|------|
|   | 主語    | 文末表現 | わかちがき | ローマ字表記 | カタカナ表記 | 外来語   | 語彙説明 |
| 1 | あり    | あり   | あり    | あり     | あり     | あり    | あり   |
| 2 | あり    | あり   | あり    | なし     | なし     | なし    | なし   |
| 3 | あり    | なし   | なし    | あり     | なし     | あり    | なし   |
| 4 | あり    | なし   | なし    | なし     | あり     | なし    | あり   |
| 5 | なし    | あり   | なし    | あり     | あり     | なし    | なし   |
| 6 | なし    | あり   | なし    | なし     | なし     | あり    | あり   |
| 7 | なし    | なし   | あり    | あり     | なし     | なし    | あり   |
| 8 | なし    | なし   | あり    | なし     | あり     | あり    | なし   |

か。」において表1のP1を適用する場合全ての要素を「あり」として文を構成する。

- ・主語あり：あなたは
- ・文末表現の制限あり：「見ませんか」を「見ることができます」へ変更
- ・わかちがきあり：文節にスペースを入れる
- ・ローマ字表記あり：HANABI
- ・和語・漢語のカタカナ表記あり：キレイな
- ・外来語あり：フェス
- ・語彙説明あり：町おこし(町をにぎやかにする)

となり、「あなたは」8月1日の町おこし(町をにぎやかにする)フェスで「キレイな」HANABIを「見ることができます。」という文ができる。以下同様に全8パターンを作成する。

但し今回は疑似広報文Aの評価文は表1のP1.2.7.8、疑似広報文Bの評価文はP3.4.5.6を用いることとし、倦怠による回答精度低下を避けるために評価文の間にダミー4文を挟むこととし、いずれの文も漢字に全てひらがなでふりがなをふった。

### 4.2.3 評定項目(RA)

評価文について①よくわかる②だいたいわかる③すこしわかる④あまりわからない⑤ぜんぜんわからないの5段階尺度の評定で、1文ごとの絶対評価とした。

### 4.2.4 質問票

属性に関する質問、評価文及び回答、最後に自由記載欄を設けた。回答方法は回答者の環境によって選択できるように、紙面とQRコードによるインターネット上の2種類を用意した。

### 4.2.5 分析方法

各要素の影響度を数値化するために、決定木分析と重回帰分析を行う。決定木とは説明変数と目的変数を設定し情報利得が最大となる基準でデータをグループ分け(分割)し続ける方法で、視覚的に理解しやすく外れ値にも強い。アルゴリズムは今回CHAIDを使用した。各ステップにおいて、CHAIDは従属(目的)変数と最も強い交互作用を持つ独立(説明)変数を選択、カイ2乗自動反復検出するものである。重回帰分析は多変量解析の一種で回帰分析において説明変数が複数のものをいい、予測や影響度を導くことができる。

## 5. 調査

### 5.1 1次調査

3分類7項目の要素の妥当性及び調査・分析方法の確認を目的として実施した。

#### 5.1.1 調査期間・対象・方法・内容

【期間】令和2年1月25日から2月15日（1月29日に回答収集完了）

【対象者】アークアカデミー（日本語学校）初中級クラス60名

【方法】紙面及びQRコード利用によるインターネット回答で、評価文

8ダミー文4の計12文について5段階（順序尺度）で評価してもらった。

#### 5.1.2 調査結果

【回答数】55件（中国人43名・欧米人9名・その他3名）うち有効回答数は41件

決定木分析は「わかちがきあり」が5%水準で有意であったが第一分岐で終了し他の要素の分析ができず、重回帰分析においては統計学的に有効な結果が得られなかった。（図1、表2）

#### 5.1.3 問題点及び2次調査へ向けての修正

要素間の有効な差異が見られなかった原因として、評価文がやさしすぎたこと（表3）、評価方法については要素

表3 評価文平均値比較

|           | 得点 | 評価文A (平均1.69) |      |      |      |      | 評価文B (平均1.81) |      |      |  |  |
|-----------|----|---------------|------|------|------|------|---------------|------|------|--|--|
|           |    | P1            | P2   | P7   | P8   | P3   | P4            | P5   | P6   |  |  |
|           |    | Q19           | Q13  | Q18  | Q10  | Q18  | Q21           | Q12  | Q15  |  |  |
| よくわかる     | 1  | 32            | 40   | 39   | 32   | 27   | 33            | 28   | 30   |  |  |
| だいたいわかる   | 2  | 5             | 4    | 4    | 7    | 9    | 9             | 8    | 8    |  |  |
| すこしわかる    | 3  | 12            | 10   | 10   | 13   | 19   | 12            | 15   | 15   |  |  |
| あまりわからない  | 4  | 3             | 0    | 1    | 2    | 0    | 1             | 3    | 1    |  |  |
| ぜんぜんわからない | 5  | 3             | 1    | 1    | 1    | 0    | 0             | 1    | 1    |  |  |
| 小計        |    | 55            | 55   | 55   | 55   | 55   | 55            | 55   | 55   |  |  |
| 平均        |    | 1.91          | 1.51 | 1.56 | 1.78 | 1.85 | 1.65          | 1.93 | 1.82 |  |  |
| やさしい順位    |    | 7             | 1    | 2    | 4    | 6    | 3             | 8    | 5    |  |  |

間の差異が微少である可能性があり絶対評価では分析できないことが考えられ、それぞれ見直しを行った。

### 5.2 2次調査

#### 5.2.1 調査準備

疑似広報文Aは防災の記事を参考に「台風の前に“ハザードマップ”でO-ta-choのキケンな場所をしらべよう。」（29文字）へ全面的に変更した。疑似広報文B「不用品をリサイクルしてゴミをZEROにする必要があります。」（25文字）は、「未来のために不用品をリサイクルしてゴミをZEROにする必要があります。」（31文字）とした。2次調査でもL8（27）直交表に基づき疑似広報文A・BそれぞれについてP1からP8までの評価文を作成し、今回疑似広報文AはP1.2.4.6（グループI）の4文とP3.5.7.8（グループII）の4文の2グループに、疑似広報文BはP1.3.4.7（グループIII）とP2.5.6.8（グループIV）の2グループに分けた。いずれのグループも「わかちがき」ありとなしが2文ずつ含まれている。

グループIは

P1：あなたは「台風（ひどい雨風）の前に「ハザードマップ」で「Ota-choの「キケンな場所を」しらべたほうがいいです。

P2：あなたは「台風の前に「あぶない所が「わかる地図」で「大田町の「きけんな場所を」しらべたほうがいいです。

P4：あなたは台風（ひどい雨風）の前に「あぶない所がわかる地図」で大田町のキケンな場所をしらべよう。

P6：台風（ひどい雨風）の前に「ハザードマップ」で大田町のきけんな場所をしらべたほうがいいです。

となる。

まず上記の通りグループとしたパターンの異なる4文を読ませ、質問は「1番やさしい（わかりやすい）文はどれですか」「2番目にやさしい文はどれですか」「3番目にやさしい文はどれですか」「4番目にやさしい文はどれですか」とし、4つの文からそれぞれ1文を選択することで順位が決まる相対評価とした。質問の最後に疑似広報文A.Bに1次評価で用いた「8月1日の町おこしフェスでキレイなHANABIを見ませんか」を加えた3文についてもやさしさの順序をつけてもらい、評価文間の差異補正ができるようにした。

2次調査では要素間の差異の明確化のためにコンジョイント分析を用いた。コンジョイント分析とは商品企画等に用いられる手法で、消費者が複数の商品から1つを選ぶ場

図1 決定木分析結果1

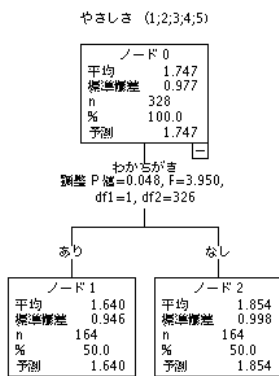


表2 回帰分析結果

概要

| 回帰統計   |      |
|--------|------|
| 重相関 R  | 0.16 |
| 重決定 R2 | 0.03 |
| 補正 R2  | 0.01 |
| 標準誤差   | 0.97 |
| 観測数    | 328  |

分散分析表

|    | 自由度 | 変動     | 分散   | 観測された分散比 | 有意 F |
|----|-----|--------|------|----------|------|
| 回帰 | 7   | 8.34   | 1.19 | 1.26     | 0.27 |
| 残差 | 320 | 303.66 | 0.95 |          |      |
| 合計 | 327 | 312.00 |      |          |      |

|        | 係数    | 標準誤差 | t     | P-値  | 下限 95% | 上限 95% | 下限 95.0% | 上限 95.0% |
|--------|-------|------|-------|------|--------|--------|----------|----------|
| 切片     | 1.69  | 0.15 | 11.10 | 0.00 | 1.39   | 1.99   | 1.39     | 1.99     |
| 主語     | -0.02 | 0.11 | -0.17 | 0.87 | -0.23  | 0.19   | -0.23    | 0.19     |
| 文末表現   | 0.03  | 0.11 | 0.28  | 0.78 | -0.18  | 0.24   | -0.18    | 0.24     |
| わかちがき  | -0.21 | 0.11 | -1.98 | 0.05 | -0.43  | 0.00   | -0.43    | 0.00     |
| ローマ字表記 | 0.10  | 0.11 | 0.96  | 0.34 | -0.11  | 0.32   | -0.11    | 0.32     |
| カタカナ表記 | 0.13  | 0.11 | 1.19  | 0.23 | -0.08  | 0.34   | -0.08    | 0.34     |
| 外来語    | 0.15  | 0.11 | 1.42  | 0.16 | -0.06  | 0.36   | -0.06    | 0.36     |
| 語彙説明   | -0.07 | 0.11 | -0.62 | 0.53 | -0.28  | 0.14   | -0.28    | 0.14     |

広報紙におけるやさしい日本語  
— 受け手にとってのやさしきの要素検討 —

合、それぞれの評価項目がどの程度目的変数（購入度合）に影響を与えているかを明らかにする分析手法である。コンジョイント分析には順位評価、一対比較評価、得点評価の3手法があるが要素の差異が最も判別できる、順位評価で実施する。

5.2.2 調査

【期間】2020年2月20日から3月30日

【対象】インターネットを利用した不特定の外国人調査では、なりすまし回答が混入する恐れがあるため、協力機関を特定した。但し紙面で提出のあった日本語学校3校を除き、どの機関からの回答かは不明である。

【調査方法】紙面及びQRコード利用によるインターネット回答

5.2.3 調査結果

回答数は24か国148件、うち有効回答数21か国127件である。分析はデータ全体、属性毎に実施し、127件1件ずつについても部分効用値、影響度を算出し、外れ値の確認に利用した。

(1) 全件（127件）分析

(a) 影響度

表5及び図2の通り、最も影響度が高いのは「わかちがき」（25.09）で、「ローマ字表記」（21.10）、「外来語」（19.13）と続く。「語彙説明」（12.62）、「カタカナ表記」（8.48）、「文末表現の制限」（7.0）、「主語の有無」（6.58）と、影響度が20を超えた2項目、影響度10未満の3項目と明確な差異がみられた。

(b) 部分効用値（正の値が大きいほどやさしいと感じる）

部分効用値をみると、わかちがきが「あり」の場合「やさしい」と感じ、ローマ字表記や外来語は「なし」であることが仮説通り重要であることが検証された。仮説と逆の結果となったのは、主語・文末表現の制限・カタカナ表記・語彙説明である。

(c) 分類別（統語的要素・表記的要素・語彙的要素）影響度

統語的要素は（主語あり-0.079主語なし0文末表現の制

表 5 影響度（全件分析）

|        | レンジ(最大-最小) | 影響度   |
|--------|------------|-------|
| 主語     | 0.079      | 6.58  |
| 文末表現   | 0.084      | 7.00  |
| わかちがき  | 0.302      | 25.09 |
| ローマ字表記 | 0.254      | 21.10 |
| カタカナ表記 | 0.102      | 8.48  |
| 外来語    | 0.231      | 19.13 |
| 語彙説明   | 0.152      | 12.62 |
| 計      | 1.206      | 100   |

図 2 影響度（全件分析）

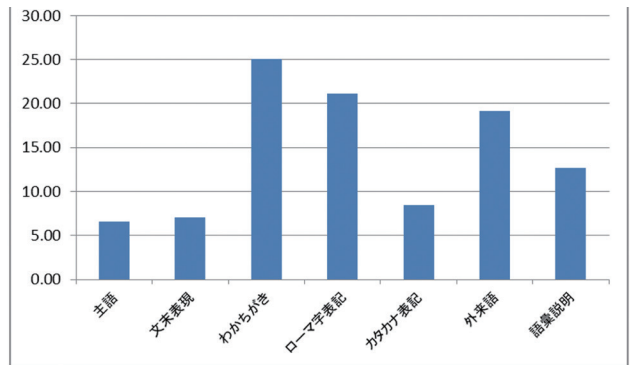


表 6 部分効用値（全件分析）

| 水準名       | データ件数 | 偏回帰係数   | 加重平均   | 部分効用値  |
|-----------|-------|---------|--------|--------|
| 主語あり      | 1016  | -0.0793 | -0.040 | -0.040 |
| 主語なし      | 1016  | 0.0000  |        | 0.040  |
| 文末表現の制限あり | 1016  | -0.0844 | -0.042 | -0.042 |
| 文末表現の制限なし | 1016  | 0.0000  |        | 0.042  |
| わかちがきあり   | 1016  | 0.3025  | 0.151  | 0.151  |
| わかちがきなし   | 1016  | 0.0000  |        | -0.151 |
| ローマ字表記あり  | 1016  | -0.2544 | -0.127 | -0.127 |
| ローマ字表記なし  | 1016  | 0.0000  |        | 0.127  |
| カタカナ表記あり  | 1016  | 0.1023  | 0.051  | 0.051  |
| カタカナ表記なし  | 1016  | 0.0000  |        | -0.051 |
| 外来語あり     | 1016  | -0.2306 | -0.115 | -0.115 |
| 外来語なし     | 1016  | 0.0000  |        | 0.115  |
| 語彙説明あり    | 1016  | -0.1522 | -0.076 | -0.076 |
| 語彙説明なし    | 1016  | 0.0000  |        | 0.076  |

図 3 部分効用値（全件分析）

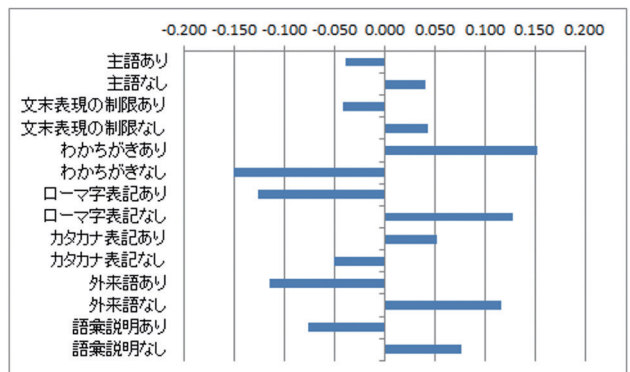
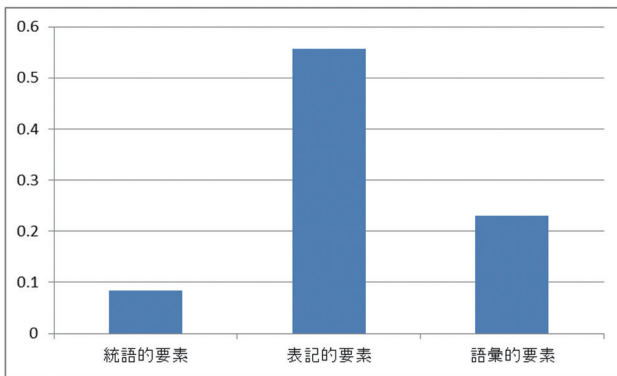


表 4 回答者数内訳

| 回収数140<br>(属性不明8件除く) |    | 有効回答127 | 有効回答127件     |    |
|----------------------|----|---------|--------------|----|
| 男性                   | 71 | 62      | 在日年数         |    |
| 女性                   | 67 | 63      | 1年未満         | 57 |
| その他                  | 2  | 2       | 1~2年         | 33 |
|                      |    |         | 3~5年         | 7  |
|                      |    |         | 6~9年         | 7  |
|                      |    |         | 10年以上        | 23 |
|                      |    |         | 日本語学習歴       |    |
| 中国                   | 42 | 35      | 学校での学習歴なし    | 19 |
| ベトナム                 | 37 | 36      | 1年未満         | 56 |
| 韓国                   | 10 | 10      | 1~2年         | 39 |
| フィリピン                | 7  | 7       | 3~5年         | 9  |
| アメリカ                 | 7  | 6       | 6~9年         | 0  |
| タイ                   | 5  | 5       | 10年以上        | 4  |
| ネパール                 | 4  | 4       | 広報紙利用度       |    |
| オーストラリア              | 3  | 3       | いつも読む        | 7  |
| スリランカ                | 3  | 3       | 時々読む         | 28 |
| ブラジル                 | 3  | 3       | あまり読まない      | 48 |
| 日本                   | 3  | 3       | 全然読まない       | 44 |
| カナダ                  | 2  | 1       | 読解力（広報紙レベル）  |    |
| ペルー                  | 2  | 2       | 全部読むことができる   | 13 |
| 台湾                   | 2  | 2       | だいたい読むことができる | 42 |
| アルゼンチン               | 1  | 0       | 少し読むことができる   | 50 |
| イスラエル                | 1  | 1       | あまり読むことができない | 16 |
| 北朝鮮                  | 1  | 0       | 全然読むことができない  | 6  |
| スウェーデン               | 1  | 1       | わからないこと      |    |
| スペイン                 | 1  | 1       | インターネットで調べる  | 89 |
| フィンランド               | 1  | 1       | 家族・友達に聞く     | 27 |
| ミャンマー                | 1  | 1       | 学校の先生に聞く     | 7  |
| メキシコ                 | 1  | 0       | 市役所などで聞く     | 2  |
| モンゴル                 | 1  | 1       | その他          | 2  |
| ロシア                  | 1  | 1       |              |    |
|                      |    |         |              |    |
| 10代                  | 15 | 15      |              |    |
| 20代                  | 85 | 75      |              |    |
| 30代                  | 12 | 12      |              |    |
| 40代                  | 11 | 11      |              |    |
| 50代                  | 11 | 11      |              |    |
| 60代以上                | 6  | 3       |              |    |
|                      |    |         |              |    |
| 学生                   | 96 | 87      |              |    |
| その他                  | 44 | 40      |              |    |



図4 分類別影響度比較



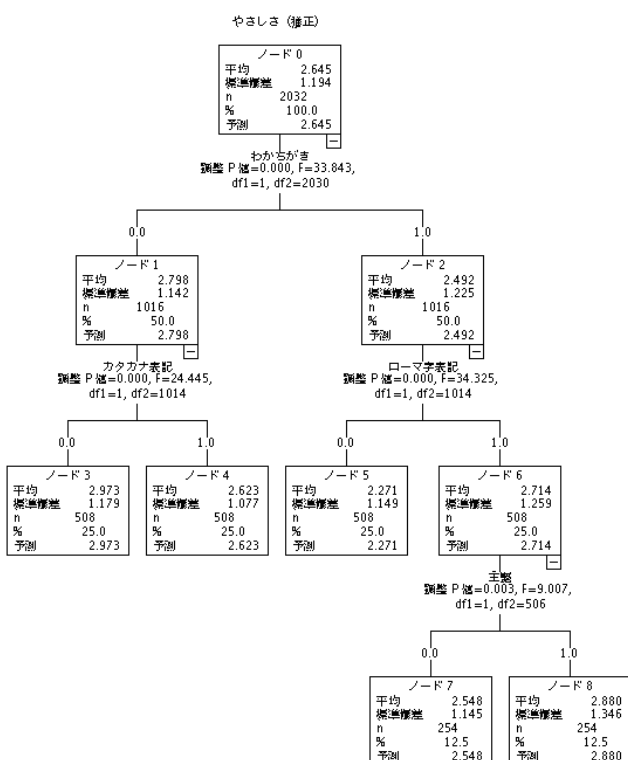
限あり-0.084なし0にて)レンジは0.084となり、表記的要素のレンジは0.302-(-0.254)=0.556、語彙的要素のレンジは0-(-0.231)=0.231であり、図4の通り表記的要素の影響度が最も高かった。

同じ方法にて全回答者個別、国籍別、職業別、在日年数別、学習歴別読解力別、外れ値、について影響度と部分効用値を算出した。

#### 5.2.4 決定木分析結果

1次調査で用いた決定木分析も合わせて実施し、コンジョイント分析の検証に用いた。やさしさへ最も大きな影響を与えたのは「わかちがき」であり、1次調査では第1分岐までで終了したが、今回は第3分岐まで分岐が続いた。まず「わかちがきあり(ノード2)」が「なし(ノード1)」よりも平均値が低く、「わかちがきあり」がやさしく感じることを示している。次に影響度が高いのは「ローマ字表

図5 決定木分析結果2



記」であり、この要素については「ローマ字表記なし(ノード5)」が「あり(ノード6)」よりもやさしく感じるという結果となりコンジョイント分析の結果に合致した。さらに属性別の分析においてもやさしさへの影響度の1位の要素は両分析において同一という結果が得られた。

#### 5.2.5 各要素の影響度及び部分効用値まとめ

やさしさの順位を決める際の選択基準をアンケート調査に参加した5名に直接尋ねたところ、第1に短い文、第2に苦手な表記(漢字、ローマ字、カタカナ)が少ないものを選ぶといった共通の意見が聞かれた。主語と語彙説明が「あり」の場合、文全体が長くなるためやさしくないと感じ、「長いと読みたいくない」とのことである。このことからあらためて大前提とした5項目を踏まえたうえで、今回の調査結果について整理する。

コンジョイント分析の結果、部分効用値の最大値と最小値の差(レンジ)が大きいほどやさしさへの影響度も大きくなるわけであるが、本調査は感性評価であることから、比率として算出した数値を比較するのではなく、以下のレベル分けに基づいて定性的にやさしさを判定することとした。

影響度20以上：やさしさへの影響大

影響度10以上20未満：やさしさへの影響中

影響度10未満：やさしさへの影響小

要素の影響度の数値が小さいことは「やさしくない」ことを意味するのではなく、やさしさへの影響が他の要素より小さいということである。

#### ①主語の有無 やさしさへの影響“最小”(6.58)

影響度は7要素の中で最も小さく、「あり」と「なし」も僅差で主語がない方がやさしいとは断定できない。成人の場合、文脈、場面から行為の主体を容易に想像できるため、主語の必要性は高くない。主語省略により短文化し、読解の難易度が下がることで、「なし」がやさしいと感じる。属性別でも主語「なし」がやさしいとの結果がほとんどであったが、ベトナム人学生(学習歴1年未満)のグループのみ主語「あり」がやさしいとの結果だったため、この日本語学校の担任教師に確認ところ、日本語能力がまだ低く、アンケート内容自体を理解できていない可能性があるとのことであった。想定しているN4レベルに至らない場合は明確な傾向を得られないと推測される。

#### ②文末表現の制限 やさしさへの影響“小”(7.00)

主語の有無同様、文末表現の制限の影響度の値は低く、「あり」「なし」のレンジの幅が小さいことから、「なし」にすることで飛躍的に文のやさしさが増大するわけではない。結果からは初級レベルの6種類以外の表現であっても、N4レベル程度の動詞で、尊敬語、謙譲語や二重否定を用いなければ文の理解に支障はないと考えられる。

#### ③わかちがきの有無 やさしさへの影響“最大”(25.09)

仮説通りの結果であり、「やさしい日本語」の第1条件であることが数値で示された。わかちがきされた文は語彙が

広報紙におけるやさしい日本語  
— 受け手にとってのやさしさの要素検討 —

把握しやすく、legibilityの効果も高くなり、日本語の文を読むことへの抵抗が少なくなる。

④ローマ字表記やさしさへの影響 “大” (21.10)

「発音がわかる」ので「あり」がよいとの意見も聞かれたが、わかちがきについて影響度が高く、ローマ字表記しないことが望ましいとの結果が得られた。

⑤和語・漢語のカタカナ表記の有無 やさしさへの影響 “中” (8.48)

カタカナ語と外来語を同一視する場合もあるが、和語・漢語のカタカナ表記については既習語彙であれば混乱することはなく理解でき、カタカナ表記自体の影響度は低かった。

自由記入で多かった「カタカナきれい」「カタカナやめて」という意見は外来語を指していると推察する。

⑥外来語の有無 やさしさへの影響 “中” (19.13)

日本人にもわかりにくい外来語を用いることは控える必要があり、一部の日本人にみられる「外来語なら外国人にわかりやすい」という認識は見直すべきであろう。但し日常で使用される語彙であれば習得できている可能性が高く、使用を制限する必要はないであろう。

⑧語彙説明の有無 やさしさへの影響 “中” (12.62)

主語同様、長文化を好まないため「なし」がやさしいとする意見と、理解を補助するため「あり」がやさしいとする意見がある。脚注や文末表記する等位置を工夫すればやさしさへの影響度は増すと考える。

6. 考察

6.1 調査結論

本研究で実施した1次調査、2次調査から得た結果をもとにやさしい日本語についてあらためて考える。

まず1次調査では「わかちがき」が外国人にとって日本語の文全体をわかりやすくするために有効であり、「わかちがき」されている前提で「カタカナ」、「外来語」、「ロー

マ字」をなくすことでよりやさしさが増し、反対に「わかちがき」されていないと他の要素を使い分けても効果的に文をわかりやすく、つまりやさしくすることはできないと考えた。次に実施した2次調査では、選定した3分類7項目の要素についてやさしさへの影響を統計学的に実証することができ、表記的要素の影響度が突出して高かったことから、外国人にとって統語つまり文の構成や語彙が理解不十分であっても、表記方法を工夫することでやさしいと感じ、実際に手に取ってもらえる可能性、読んでもらう機会を広げられると考えた。本調査の結論として、受け手である外国人にやさしい広報紙は以下を優先事項とする。

1. わかちがきを導入する
2. 一般的に広く使われている外来語であれば使用を認める
3. ローマ字表記はしない

主語の有無、文末表現の制限、カタカナ表記、語彙説明の影響度が低いことから文作成時の優先度も下げられるが、やさしさの要素であることには変わらない。

6.2 問題点及び結果検証の限界

以上はあくまでも先に述べた「やさしさ」の大前提5項目と7要素に基づく調査で得た結論であり、調査方法により異なる結論となる可能性も否めないため、ここで今回の調査の問題点についても整理する。

6.2.1 各要素の影響度及び部分効用値まとめ

要素は筆者の独断ではなく、すでに研究発表、実用化されている「やさしい日本語」作成方法や、外国人及び日本人関係者へのヒアリング等をもとに抽出・選定したものである。本研究ではその「有無」のみを調査対象としており、例えば最も影響度が高かった「わかちがき」は「あり」がやさしく感じることを数値で示せたが、わかちがきの仕様の違いによる影響度については調査していない。自治体のやさしい日本語の広報紙やWEBサイトを確認する

表7 影響度一覧

| 影響度    | 国籍    |       |       |         |       | 学生か否か |       | 在日年数   |        | 学習歴   |         |         |         | 読解力      |       |          | (参考)   |       |
|--------|-------|-------|-------|---------|-------|-------|-------|--------|--------|-------|---------|---------|---------|----------|-------|----------|--------|-------|
|        | 全体    | 中国・台湾 | 韓国    | その他のアジア | 欧米諸   | 学生    | 学生以外  | 在日1年未満 | 在日1年以上 | 学習歴なし | 学習歴1年未満 | 学習歴1~2年 | 学習歴3年以上 | 読解力が高い全部 | 読解力少し | 読解力あまり全部 | ベトナム学生 | 中国学生  |
| 主語     | 6.59  | 10.20 | 18.28 | 8.22    | 15.76 | 6.22  | 4.54  | 0.47   | 15.53  | 8.95  | 0.51    | 10.46   | 22.10   | 10.44    | 0.14  | 7.53     | 7.89   | 4.28  |
| 文末表現   | 7.00  | 12.81 | 11.15 | 8.45    | 9.26  | 1.52  | 18.24 | 5.04   | 9.87   | 21.08 | 1.36    | 6.22    | 4.61    | 11.89    | 1.60  | 9.41     | 11.58  | 6.28  |
| わかちがき  | 25.09 | 19.75 | 17.83 | 22.44   | 24.49 | 25.44 | 15.71 | 18.81  | 34.29  | 10.83 | 24.00   | 26.41   | 3.02    | 13.71    | 30.52 | 40.25    | 9.19   | 20.12 |
| ローマ字表記 | 21.10 | 21.76 | 36.39 | 6.02    | 14.27 | 14.66 | 29.69 | 18.95  | 24.25  | 26.51 | 17.07   | 19.10   | 12.64   | 29.60    | 15.12 | 4.54     | 5.42   | 23.47 |
| カタカナ表記 | 8.48  | 0.08  | 0.96  | 18.07   | 10.31 | 9.53  | 0.75  | 11.57  | 3.95   | 5.31  | 9.33    | 3.55    | 22.50   | 5.44     | 10.63 | 10.67    | 7.17   | 0.37  |
| 外来語    | 19.13 | 30.27 | 5.11  | 19.22   | 15.17 | 32.04 | 17.29 | 29.87  | 3.38   | 21.41 | 23.35   | 31.05   | 27.90   | 15.81    | 21.43 | 19.33    | 41.00  | 35.86 |
| 語彙説明   | 12.62 | 5.12  | 10.29 | 17.57   | 10.75 | 10.58 | 13.78 | 15.28  | 8.73   | 5.92  | 24.38   | 3.20    | 7.23    | 13.11    | 20.56 | 8.27     | 17.75  | 9.63  |
| 計      | 100   | 100   | 100   | 100     | 100   | 100   | 100   | 100    | 100    | 100   | 100     | 100     | 100     | 100      | 100   | 100      | 100    | 100   |

表8 部分効用値一覧

| 部分効用値     | 国籍     |        |        |         |        | 学生か否か  |        | 在日年数   |        | 学習歴    |         |         |         | 読解力      |        |          | (参考)   |        |
|-----------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|----------|--------|----------|--------|--------|
|           | 全体     | 中国・台湾  | 韓国     | その他のアジア | 欧米諸    | 学生     | 学生以外   | 在日1年未満 | 在日1年以上 | 学習歴なし  | 学習歴1年未満 | 学習歴1~2年 | 学習歴3年以上 | 読解力が高い全部 | 読解力少し  | 読解力あまり全部 | ベトナム学生 | 中国学生   |
| 主語あり      | -0.040 | -0.103 | -0.153 | 0.039   | -0.118 | -0.044 | -0.028 | -0.004 | -0.069 | -0.070 | 0.004   | -0.080  | -0.062  | -0.072   | -0.001 | -0.046   | 0.052  | -0.109 |
| 主語なし      | 0.040  | 0.103  | 0.153  | -0.039  | 0.118  | 0.044  | 0.028  | 0.004  | 0.069  | 0.070  | -0.004  | 0.080   | 0.062   | 0.072    | 0.001  | 0.046    | -0.052 | 0.109  |
| 文末表現の制限あり | -0.042 | -0.128 | -0.093 | 0.040   | -0.070 | -0.011 | -0.114 | -0.040 | -0.044 | -0.164 | -0.010  | -0.047  | 0.013   | -0.083   | 0.009  | -0.057   | 0.067  | -0.134 |
| 文末表現の制限なし | 0.042  | 0.128  | 0.093  | -0.040  | 0.070  | 0.011  | 0.114  | 0.040  | 0.044  | 0.164  | 0.010   | 0.047   | -0.013  | 0.083    | -0.009 | 0.057    | -0.067 | 0.134  |
| わかちがきあり   | 0.151  | 0.208  | 0.149  | 0.107   | 0.184  | 0.178  | 0.098  | 0.150  | 0.152  | 0.084  | 0.176   | 0.202   | -0.008  | 0.095    | 0.171  | 0.246    | 0.054  | 0.216  |
| わかちがきなし   | -0.151 | -0.208 | -0.149 | -0.107  | -0.184 | -0.178 | -0.098 | -0.150 | -0.152 | -0.084 | -0.176  | -0.202  | 0.008   | -0.095   | -0.171 | -0.246   | -0.054 | -0.216 |
| ローマ字表記あり  | -0.127 | -0.216 | -0.304 | -0.029  | -0.107 | -0.103 | -0.185 | -0.151 | -0.108 | -0.206 | -0.125  | -0.146  | 0.036   | -0.205   | -0.085 | -0.028   | -0.032 | -0.252 |
| ローマ字表記なし  | 0.127  | 0.216  | 0.304  | 0.029   | 0.107  | 0.103  | 0.185  | 0.151  | 0.108  | 0.206  | 0.125   | 0.146   | -0.036  | 0.205    | 0.085  | 0.028    | 0.032  | 0.252  |
| カタカナ表記あり  | 0.051  | -0.010 | -0.008 | 0.086   | 0.078  | 0.067  | 0.005  | -0.092 | -0.018 | 0.041  | 0.068   | 0.027   | 0.063   | 0.038    | 0.060  | 0.065    | 0.042  | -0.004 |
| カタカナ表記なし  | -0.051 | 0.010  | 0.008  | -0.086  | -0.078 | -0.067 | -0.005 | -0.092 | -0.018 | -0.041 | -0.068  | -0.027  | -0.063  | -0.038   | -0.060 | -0.065   | -0.042 | 0.004  |
| 外来語あり     | -0.115 | -0.298 | -0.043 | -0.092  | 0.114  | -0.225 | 0.108  | -0.239 | -0.015 | 0.167  | -0.171  | -0.237  | 0.078   | -0.110   | -0.120 | -0.118   | -0.239 | -0.385 |
| 外来語なし     | 0.115  | 0.298  | 0.043  | 0.092   | -0.114 | 0.225  | -0.108 | 0.239  | 0.015  | -0.167 | 0.171   | 0.237   | -0.078  | 0.110    | 0.120  | 0.118    | 0.239  | 0.385  |
| 語彙説明あり    | -0.076 | -0.053 | -0.086 | -0.084  | -0.081 | -0.074 | -0.086 | -0.122 | -0.039 | -0.046 | -0.179  | 0.024   | 0.020   | -0.091   | -0.115 | 0.050    | -0.104 | -0.059 |
| 語彙説明なし    | 0.076  | 0.053  | 0.086  | 0.084   | 0.081  | 0.074  | 0.086  | 0.122  | 0.039  | 0.046  | 0.179   | -0.024  | -0.020  | 0.091    | 0.115  | -0.050   | 0.104  | 0.059  |



と自立語＋助詞で区切るもの、文節で区切るものなど仕様は複数存在する。他の要素についても仕様の違いが影響度の変化をもたらすかは不明である。

また要素のひとつ「主語の有無」については、影響度は7項目中最低であったが、調査に用いた疑似広報文に起因する部分があると考えられる。行為者が特定しづらい文を用いた場合、統語的要素の影響度が変化するか否かを評価すべきであったことも反省点である。

### 6.2.2 評価方法

今回はコンジョイント分析を用いたが、各要素について具体的に問うのではなく、また要素のある文とない文を同時に提示しどちらがやさしいかを問うものでもない。つまりコンジョイント分析は個別の要素を評価するのではなく、文としてのわかりやすさを評価することで各要素の文への影響度を算出できる手法であり、今回の研究目的達成のために最も適した手法として選択した。しかしこの方法で調査では評価文を理解できているかは確認できない。日本語学校では初中級クラスから文字・発音・文法・会話・読解・聴解・作文等の授業があるが、特に読解の授業において読むことはできても意味がわからない学生が存在した。ひらがな、カタカナ、N4.3レベル漢字の習得により読めるため初見ではやさしいと感じ音読できるが、語彙や文法が同レベルに達していない場合意識することができない。評価文が本当に理解できているのかは今回の調査の限界にて検証できていないことは問題点として残るものと考えられる。

さらに評価文自体についても回答者の負荷を考慮し2種類の疑似広報文のみで調査したが、全く別の文でも同様の結果が得られるかは不明である。

### 6.2.3 やさしさについての再考

本研究では「やさしい日本語」を「わかりやすい日本語」と位置づけて調査を行ったが、「やさしさ」と「わかりやすさ」は必ずしも同義ではないことに加え、「やさしさ」自体にも、相手を思いやる気づかひの「優しさ」、わかりやすい「易しさ」があるといった多義性の問題があった。会話では意図的に前者に留意することができるが、紙面の場合「易しい」文面を作ることが受け手への「優しさ」となる。

本研究はわかりやすいという「易しさ」の解明として、1次調査では「よくわかる」から「ぜんぜんわからない」までの5段階尺度で評定、2次調査では4文のうち「一番やさしい（わかりやすい）文はどれですか」との評定とした。但し前項で問題点としてあげた通り、文の内容を言い換えるもしくは母語で表現してもらった等の検証が行えていないため、やさしい（わかりやすい）として選択した文の意味を回答者が正しく理解しているのかは不明である。

また「第1に短い文、第2に苦手な表記（漢字、ローマ字、カタカナ）が少ないものを選ぶ」とのヒアリング結果から、アンケートという回答の選択を迫られた状況で、意

味は不明でも視覚的に「やさしい」と判断した文を選んだ可能性もあると考えられる。つまり今回はreadabilityに特化したのが、やさしさはlegibilityの影響も大きいということとなる。

石黒（2016）は文章を理解する8段階のプロセスを提示しそのうちreadabilityに関わる6段階において、文章をわかりにくくする表現の要因について述べ、それを避けることでわかりやすくなるとしている。また佐竹（2016）は日本語表記のわかりにくさについて文字体系、文字数、わかちがき等をあげているが結論として「文をなるべく短くて単純なものにするのがよい」と述べている。

やさしい日本語は、いかなる状況・媒体でも同じ基準でないとはいえない。では媒体を「広報紙」とした場合の「やさしい日本語」はどう位置づけるか。行政機関発行の広報紙は紙面サイズ、担当職員数、編集作業時間数及び掲載事項等制限事項が多い。抽出したやさしさの7つの要素のうち、わかちがきをし、ローマ字表記は避けることを優先しつつ、内容により他の要素も含めた文を推奨したい。なぜならばイベント案内と納税や保険の通知では重要度が異なるからである。記事による使い分けを行うか否かが「やさしさ」ではないだろうか。

## 7. まとめ

広報紙の提供方法は過渡期を迎えており、昨今デジタル化が進んでいる。WEBサイトでは機械翻訳を選択することができ母語での閲覧が可能となる。機械翻訳による母語での情報取得を否定はしないが、日本語習得の動機を妨げる一因となりかねない。

また、日本人と外国人間だけでなく、母語の異なる外国人間の共通言語として「日本語」の使用が英語を上回っている。日本住民の共通言語が存在しないと不安要素は増加し、さらにその子ども世代においては教育、就職の機会損失等社会的不利益を被りかねない。「やさしい日本語」の普及は一時的・限定的ではなく日本住民全員による継続的な取り組みが必要であると考えられる。多文化共生の安全・安心な社会形成のために、本研究で得た結果がひとつの指針として「やさしい日本語」の啓発につながることを願う。

## 謝辞

修士論文をまとめるにあたり、研究の方向性や筆者の意思をご理解くださり、幅広く、深いご見識からご指導くださいました放送大学滝浦真人教授に深謝いたします。明確かつ有益なご指導をいただいた大橋理枝教授、滝浦ゼミ期の皆様、さらに調査にご協力くださった各機関や多数の関係者の方々、ならびに外国人の皆様へ感謝いたします。そして長年ご支援くださった東京大学山内久明名誉教授にこの度修士論文が完成したことをご報告するとともに感謝の意を表します。

## 文献

- 庵功雄・岩田一成他. (2019). 『〈やさしい日本語〉と多文化共生』. 東京. ココ出版. p.3.
- 庵功雄・岩田一成・森篤嗣. (2011). 「『やさしい日本語』を用いた公用文書の書き換え：多文化共生と日本語教育文法の接点を求めて」. 『人文・自然研究』5：pp.115-139.
- 岩田一成. (2016). 『読み手に伝わる公用文』. 東京. 大修館書店.
- 佐川良寿. (2002). 『統計解析の実践手法』. 東京. 日本実業出版社.
- 佐藤和之. (2009). 「生活者としての外国人へ災害情報を伝えるとき--多言語か「やさしい日本語」か (特集 多言語社会・ニッポン)-- (移民と多言語化)」. 『日本語学』28 (6) .pp.173-185. 明治書院.
- 菅民郎. (2001). 『EXCELで学ぶ多変量解析』. 東京. オーム社.
- 張萌・伊藤彰則・佐藤和之. (2012). 「日本語のやさしさの自動推定のための特徴量に関する基礎検討」. 『第74回全国大会講演論文集』2012 (1) .pp.499-500.
- 豊田秀樹. (1998). 『共分散構造分析 [入門編]』. 東京. 朝倉書店.
- 野村雅昭・木村義之. (2016). 『わかりやすい日本語』. 東京. くろしお出版.
- 日花弘子. (2019). 『データ分析本格入門』. 東京. SBクリエイティブ株式会社. P.286.
- 弘前大学社会言語学研究室. 「『やさしい日本語』にするための12の規則」(2019年7月9日最終閲覧).
- 文化庁. (2020). 『令和元年度「国語に関する世論調査」の結果の概要』  
[https://www.bunka.go.jp/koho\\_hodo\\_oshirase/hodohappyo/pdf/92531901\\_01.pdf](https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/pdf/92531901_01.pdf) (2020年11月11日最終閲覧)
- 義永美央子他. (2015). 『ことばの「やさしさ」とはなにか』東京. 三元社. p.025.